

教育普及事業「夏休みクイズラリー」と来館者数の関係について

佐藤 琢¹⁾

A Report of relation between the participant in “natsuyasumi quiz rally” and the number of visitors

Taku SATO

Key words : 教育普及

1 はじめに

青森県立郷土館では教育普及分野の事業として、夏休みと冬休みの長期休業中にクイズラリーを実施している。これは低学年用（小1～小3）25問、高学年用（小4～中3）50問のクイズを解きながら、常設展示室をまわるものである。クイズラリーの参加人数は、同時期に開催されている特別展や企画展の入場者数に影響されて増減しているように感じられる。しかし、実際にクイズラリーの参加人数と来館者数の関連性を調べた事例はないため、データのまとまっている平成21年度から24年度の4年間について調べてみたい。

2 クイズラリー参加者数と郷土館への来館者数の変化

平成21年度から24年度までの夏休みクイズラリーの期間、日数、参加者人数をまとめたものが表1である。

年 度	期 間	日 数	参加者人数
24年度	7/21～8/26	36日	436人
23年度	7/16～8/21	37日	232人
22年度	7/17～8/22	35日	339人
21年度	7/18～8/23	36日	310人

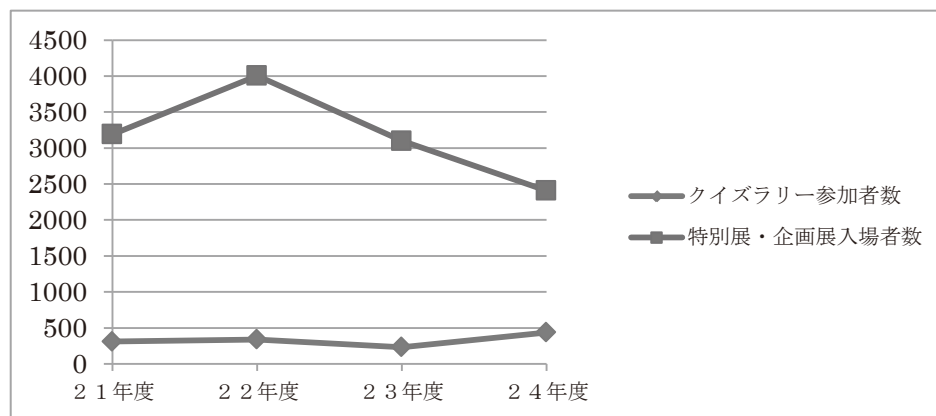
表1 クイズラリーの期間と参加者人数

開催日数は各年度ほぼ同じであり、参加者人数は年々増えていることがわかる。平成23年度は3月11日に起こった東日本大震災の影響が大きく、人数が少なかったと思われる。21年度から22年度の伸びが29人だったのに対し、22年度と24年度を比較すると約100人ほど参加人数が増えている。同時期に大ホールで行われた特別展・企画展の入場者数は、24年度よりも22年度の方が多かったと記憶しているが、実際の数値で比較したことはない。印象としてはクイズラリー参加者数と入場者数が逆の動きをしているように見える。そこで各年度の同時期に行われた特別展・企画展とその期間、入場者数を実際に調べてみたものが表2である。

年 度	特別展・企画展	期 間	小計	入場者数
24年度	学制公布140年記念「ぼくらのがっこう」	7/25～8/26	2408人	2408人
23年度	第3回地域総合展「十和田湖・八甲田山」	7/15～9/11	3101人	3101人
22年度	企画展「対馬隆 野鳥の森」	7/14～7/27	536人	4006人
	文化庁巡回展「発掘された日本列島2010」	8/2～9/5	3470人	
21年度	企画展「花田陽悟展」	7/7～8/16	3191人	3191人

表2 クイズラリーと同時期に行われた特別展・企画展の期間と入場者数

次に表1と表2より、クイズラリー参加人数と特別展・企画展入場者数の変化を比較するために作成したものがグラフ1である。



グラフ1 クイズラリー参加者数と特別展・企画展入場者数の比較

1) 青森県立郷土館 研究主査（〒030-0802 青森市本町二丁目8-14）

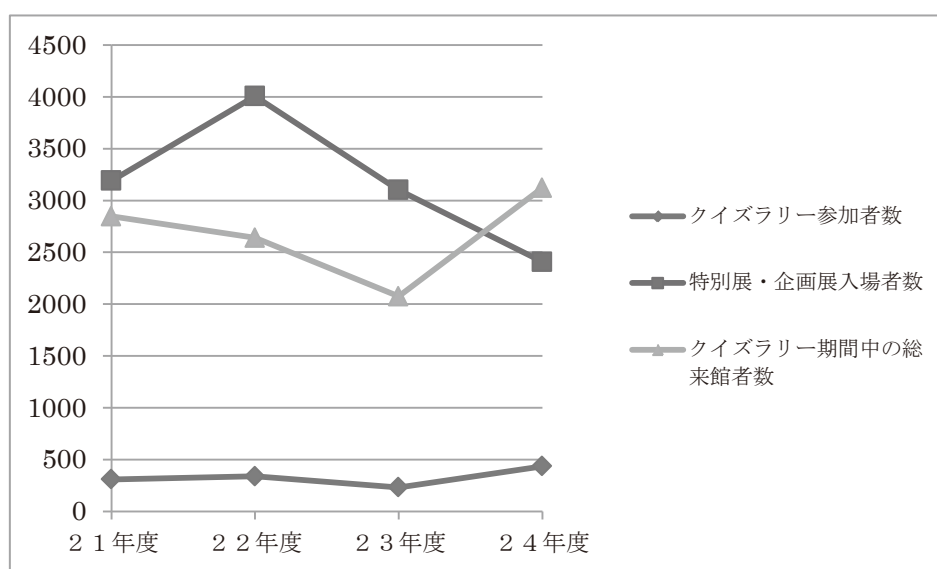
実際に調べた数値でも22年度の特別展・企画展の入場者数が多く、24年がもっとも少なくなっており、受けた印象は間違っていない。しかし、最初に述べたように、クイズラリーの参加者は特別展・企画展の入場者数に合わせて増減すると考えていたが、全く異なる結果となった。24年度のように特別展・企画展の入場者数が減っているのに、クイズラリー参加者数が大きく増えているのはなぜだろうか。

もう少し詳しくデーターを比較してみると、表2の特別展・企画展の開催期間が夏休みクイズラリーの開催期間と大きく異っている年度がある。正しく比較できていないと考えられるので、実際にクイズラリーの開催期間中に限って総来館者数を調べてみたものが表3になる。

年 度	クイズラリー期間中の総来館者数
24年度	3121人
23年度	2074人
22年度	2639人
21年度	2846人

表3 クイズラリー期間中の総来館者数

表1、表2、表3から、クイズラリーの参加人数、同時期の特別展・企画展の入場者数、クイズラリー期間中の総来館者数をグラフにまとめ比較したものが、グラフ2である。



グラフ2 クイズラリー参加者と期間中の総来館者数の比較

22年度の特別展・企画展はトータルでの入場者数は多かったものの、実際のクイズラリー期間中にはあまり来館していなかったことがわかる。21年度から22年度にかけて期間中の来館者が減っているにもかかわらずクイズラリー参加者は増加していたことになる。24年度ではクイズラリーの期間より特別展・企画展の期間が短かったこともあるが、特別展・企画展の入場者数より多くの来館者があった。つまり、常設展示室のみの見学をした人が例年より多かったと言え、その分クイズラリー参加者が多かったのかもしれない。

3 考察

クイズラリーの参加人数は同時期に行われた特別展・企画展の人数に左右されると考えてきたが、この特別展・企画展の人数は期間のことを考慮しない人数であったため、ただの印象に過ぎなかった。これからはきちんとした数字の裏付けを取って評価する必要があるだろう。基本的に来館者数の増減によってクイズラリーの参加者も変化するが、平成22年度のように来館者数が減ってもクイズラリー参加者が増えているように、来館者に対するクイズラリー参加者の割合は大きくなってきていると考えられる。平成24年度は常設展示室のみの来館者が多かったと考えられるが、この事とクイズラリーの参加者増がどのように関係しているのかを調べる方法が現段階では無いので、今後の動きに注目すると同時に調査する方法を考えていきたい。

4 おわりに

夏休みクイズラリーは、楽しみながら博物館に興味や親しみを持ってもらうことをねらいとして行っており、これらの教育普及事業を通じて、博物館を好きな子供を増やし将来の入館者数増加に繋がっていくことを期待している。比較した4年間では来館者の1割強がクイズラリーに取り組んでおり、小中学生だけをとれば来館した子供の5割が行っている。徐々に参加者が増加している結果も出ているので、これからも継続的に行ってきたい。